

新本庁舎の位置が決定

市は7月25日の臨時議会へ、新本庁舎建設にかかわる2議案を提出し可決されました。先の基本設計業務プロポーザル・コンペにより採用した技術提案書の内容とあわせ、建設までの予定についてお知らせします。

●新本庁舎の住所は「豊科6000番地」に

臨時議会で可決された議案のうち、一つ目の「土地の取得」については、豊科近代美術館西側に隣接する土地と、防災広場用地として整備する旧豊科プールの土地、合わせて約1万4千平方メートルを4億5900万円で購入します。

二つ目の「安曇野市役所の位置を定める条例の一部を改正する条例」については、議決要件である出席議員の3分の2以上（19人）を上回る21人の賛成で可決しました。この条例改正は、土地が確保できることにより新本庁舎開庁までの手続きを円滑に行えるよう、市役所の位置を「安曇野市豊科6

000番地」に変更するものです。なお、住所の使用は新本庁舎開庁後からになります。

●基本設計最優秀技術提案書の概要

今回行ったプロポーザル・コンペは、設計会社を決定するために、設計者の創造性、技術力を審査することが目的であり、提案書のとおり新本庁舎が設計されるものではありません。今後、市民の皆さんや市議会のご意見などをお聞きしながら基本設計を進めていきます。

6月30日に行った最終選考では、各設計企業体へ次の項目について技術提案を求めました。

【課題1】四季を通じ安曇野の景観にふさわしく、近隣諸施設への影響に十分配慮した庁舎
【課題2】これからの庁舎の未来像の提案と、すべての市民に利便性が良く、人にやさしく、市民を守る庁舎

【課題3】予定建設費を考慮したライフサイクルコスト（LCC）（用語①）の低減

これらの課題について最優秀提案書では、敷地中央部に既存の豊科近代美術館駐車場とあわせて広がりのある駐車ゾーンを設置。豊科近代美術館や豊科交流学习センター「きぼう」の利用者と来庁者の双方が駐車場を共用できます。さらに、災害時には、その広い空

■巻頭 新本庁舎建設に向けて

●平成27年度早期の完成を目指します

は単に事務所だけではなく、市民が気軽に寄れる親和性のある施設にすることが、表に出ない防災機能になる」という提案説明もありました。

なお、今回採用された提案書は、庁舎建設推進課窓口と市ホームページでご覧いただけます。

今後の予定については、基本設計を平成24年1月までに作成します。その後、詳細設計となる実施設計を行い、来年度後半に工事発注し、平成27年度の早い時期での完成を目指します。基本設計作成にあたり市民の皆さんのご意見をお聞きするため、ワークショップを開催する予定です。日程については広報あづみのであらためてお知らせします。

ご不明な点は市役所本庁舎内庁舎建設推進課までお問い合わせください。

（☎71・2000 ☎71・5000）

技術提案書で示された新本庁舎配置イメージ図



豊科近代美術館西側に隣接する点線で囲んだ部分が、新本庁舎建設にあたり整備を行っていく範囲です。

【用語】

- ①ライフサイクルコスト（LCC）
企画・設計から、しゅん工・運用を経て解体処分するまでを生涯としてその期間に必要とされる費用。生涯費用
- ②柱頭免震方式
免震装置を地下空間の柱の上部に設置することで、地下空間の活用ができる免震方式
- ③エコボイド
建物の1階から上の階に筒状の空間を設け、空気の流れを作り、自然換気や天井から採光を行い、光熱水費を減らす仕組み

◎基本設計業務委託業者選考の経過

実施設計の元となる基本設計を委託する企業の選考に当たってはプロポーザル・コンペ方式を採用し、選考過程のプレゼンテーションから、ヒアリング、審査まで市としては初めて全面公開で行いました。
選考は、有識者8人からなる市新本庁舎建設基本設計者審査委員会（委員長・古谷誠章早稲田大学教授）が行いました。5月24日の第一次審査を通過した代表企業応募者・市内企業応募者からなる5つの設計共同企業体（JV）が、6月30日に事前に出された3つの課題（2ページ参照）について、プレゼンテーションとヒアリングを実施。審査の結果、「内藤（東京）・小川原・尾日向（市内）設計共同企業体」を最優秀に決定しました。審査の様子は広報あづみの7月号（7月20号）に掲載しています。



新本庁舎鳥瞰イメージ（採用提案書より）